

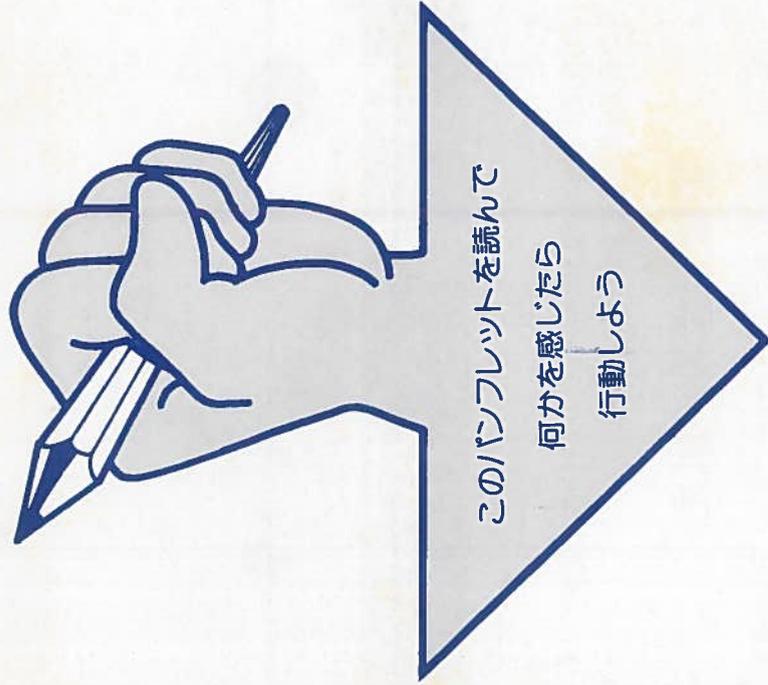
—東チモールに  
明るい朝の訪れを—



(1979年 ラカにて)

いま、世界中で起きている難民問題のなかで、特に深刻な状態となっている東チモール問題は、日本のなかではほとんど知られていません。

呉YWCAでは、学習会、スライド上映会を通して東チモールの現状を学んできました。一日も早く東チモールの人々に自由と平和な朝がおとずれすることを念じてこの小冊子を作りました。問題解決への確実な第一歩となることを願っています。



このパンフレットを読んで  
何かを感じたら  
行動しよう

★身近な人にこのパンフレットを見せよう。

★身近な人と話し合ってみよう。

★あなたのグループで、スライドを見てみよう。

スライド貸出中、詳細は呉YWCA迄

★抗議のハガキを出してみよう。

外務省宛ハガキに、あなたの声を

あなたにできることから始めましょう。!!

YWCAに、あなたの御意見をお寄せ下さい。

呉YWCA ☎0823-21-2414

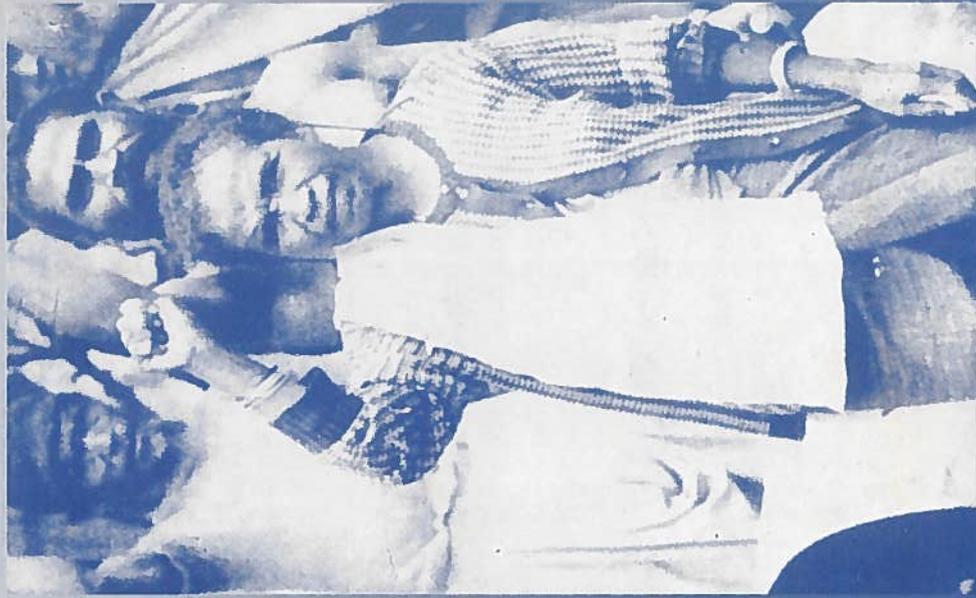
ラメラウ山

えっ！ラメラウ山、ラメラウ山、えっ！  
お前の峰より高い峰があるのか？  
お前の壮麗さに憂るものがあるのか？  
チモールよ、なぜお前の頭はいつまでも  
もたれているのか？  
チモールよ、なぜお前の子供たちは  
奴隷になっているのか？  
チモールよ、なぜお前の子供たちは  
ひな鳥のように居眠りしているのか？  
目覚めよ！ (中略)

お前のクーダの手綱を取れ  
目覚めよ！

われわれの国の指揮をとれ！  
フリスコホルジャ・タ・コスダ  
(藤本繁晴 訳)

(チモールの詩人、一九七五年十二月七日インドネシア)  
軍の手で惨殺され、三才の生涯を終えました。





東チモールは、人口約65万人(73年度統計)、面積は岩手県位、ポルトガル語を話し、農業で暮しをたてています。約400年前からポルトガルの支配下にあり、第二次大戦中には、約4年間日本軍に占領されていました。

## 希望にあふれて

1974年4月、ポルトガル本土で長年の独裁政府が倒されました。その結果すべてのポルトガル植民地には、独立への道が保証されることになり、東チモールでも、いくつかの政治的グループが結成されました。主なものは、U.D.T.(チモール民主同盟)とFRETILIN(東チモール独立革命戦線)でした。フレテリンは、あらゆる面でさまざまな活躍をし、東チモールの人々の圧倒的多数の支持を得ました。1975年はじめこの二大政党は、独立連合を形成し、東チモールには明かるい未来が開けるかのようにみえました。ところが……

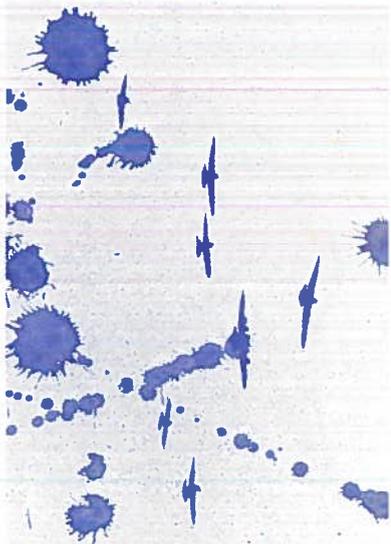
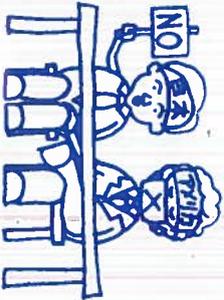
## インドネシアの侵攻

インドネシア共和国は、匡境添いに民主的な政府が誕生することに危機を感じ、東チモールの独立を粉砕しようとして干渉しはじめました。

1975年8月、U.D.T.はインドネシアの支持のもとにクーデターを起こし内戦状態になりました。ポルトガル総督は戦闘中に事実上政権を放棄し退去しました。

9月半ばには戦闘が終わり、勝利したフレテリンが東チモールを治めるようになりました。

クーデターの失敗を見て取ったインドネシアは、国境近



## 独立か死か

この侵略を開始して、東チモールの人々をおびやかしはじめてきました。

11月28日、侵略の強まる中で、フレテリンは、国連ペースでの解決を求め、独立を宣言しました。

## 爆撃・虐殺・飢え

12月7日、あらかじめアメリカやオーストラリアの了解を得たインドネシアは、首都ダイリーを手にはじめとし、東チモールの全面侵略を開始しました。山に入ったフレテリンや多くの東チモールの人々の根強いゲリラ作戦にあってインドネシア軍は、アメリカの戦闘機、爆弾、枯れ葉剤などを使用して、各地の田畑、森林、村に対する集中爆撃をはじめました。

2年間つづけられたこの作戦によって何もかも破壊しつくされました。住む所も食物も失なうて、生きる気力さえなくした女や子供、農民達はインドネシア軍に身をゆだねるほがなく収容所に入れられました。その数は、インドネシア側の発表によっても30万人(東チモールの人口の2分の1に相当します)。

1978年、戦闘開始以来はじめての外国人視察団が東チモールを訪れ、栄養失調と病気が蔓延しているあまりのひどさに衝撃を受けました。爆撃、枯れ葉剤により全土は飢餓状態にみまわれ、死者は10万人をはるかにこえたといわれます。

1979年になり、ようやく国際的な援助の一部はじまりました。一方1981年、新たに開始されたフレテリン一掃作戦の結果、数多くの東チモールの人々は、ふたたび飢餓状態をむかえました。無差別逮捕、拷問、強姦などの報告も、絶えず

伝えられています。



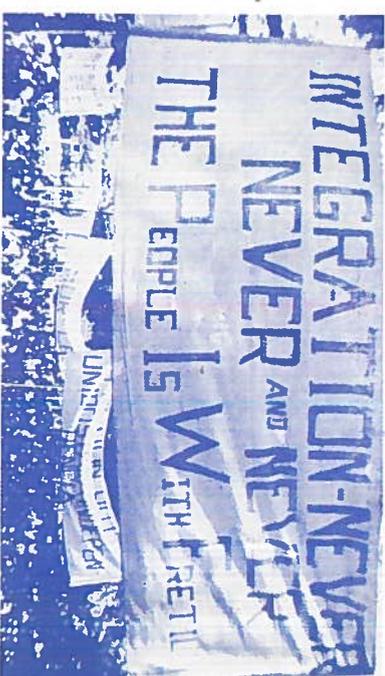
## 大国に押しつぶれそう

1980年5月

1975年の侵略以来、毎年国連では東チモールの独立権が再確認され、インドネシアに対し即時撤退するよう決議案が可決されています。しかしこれにこれに応じる様子さえないインドネシアは、一方的に東チモールを合併しました。大変残念なことには日本は、外交レベルで積極的にインドネシアの弁護をしています。

アメリカ、オーストラリア、日本などが、インドネシアの支持をやめ独立を求めている東チモールの人々の自決権を尊重するならば、この問題の解決は目に見えています。私達の無知と怠慢のためにこのままの状態がつづくかぎり、東チモールの人々は絶滅の道を歩むほかはないと思われれます。

自由を求めて東チモールの人々は、今も戦っています。さて私達は………？



『合併はいやだ いやだ、フレテリンがんばれ 私たちもついている』 1975年ダイリーにて